学園点描

各高校の入試担当の先生方が毎日のように来校します。公立高校は前期・後期試験と入試制度が変わりました。

《H学園》

NO.15　　R7. 10. 30

担当：校長

第12回Ｓ市食育・地産地消推進「標語コンクール」『あさごはん　げんきもりもり　ぱわーちゃーじ　1年A・Aさんの作品が市長賞に輝きました。

Ｓ商工会議所女性会主催の2025年度「小学生（環境・エネルギー問題）作文・絵画コンクールで次の方々が入賞しました。

【絵画の部】　最優秀賞　2年　E・Kさん、優良賞　2年　H・Rさん、I・Sさん、5年　K・Hさん

M中央協同組合営農経済部主催令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールで次の方々が入賞しました。図画部門1部（1～3年）優秀賞　3年　N・Kさん、図画部門2部（4年～6年）優秀賞　5年　N・Nさん

第44回M上地区人権作文コンテストで、9年　N・Yさんが入選しました。

10月24日（金）に学園祭を開催しました。1年生から9年生が、パフォーマンスから劇、合唱などを真剣に表現してくれました。初めて観る学園祭に、様々な可能性を感じずにはいられません。ノーペーパーで堂々と話をする実行委員会の生徒たちの姿は、何よりも多くのことを語っていました。

◇校長だよりの中で、児童･生徒の名前をイニシャルで表記していることについて、ご意見をいただきました。確かに、努力や活躍を具体的に伝えるうえでは、名前を挙げて紹介するのがいちばん自然だと思います。しかしながら、この便りは地域の方々など不特定多数の方の目に触れる広報物であり、個人情報保護の観点から、児童生徒の氏名を掲載することは控えております。

イニシャルでの記載は、匿名化のためだけでなく、その児童生徒に向けた「おめでとう」の気持ちを込めて使用しています。読みながら「もしかして自分のことかな」と感じてもらえる、そんな温かい伝え方を目指しています。なお、配布範囲が限定される学年だよりや学級だよりなどでは、個人名を挙げて賞賛や紹介をしています。どうかその意図をご理解のうえ、今後とも温かく見守っていただければ幸いです。

百花繚乱の色

24 日の学園祭。3 年生のパフォーマンスから始まった前期・中期・後期ブロックのステージ発表は、いつもの教室で見せる表情とはまるで違っていました。

ステージ上の子どもたちは、真剣そのものでした。照明の中で一人ひとりが自分の色を放ち、その光が重なり合って輝いていました。最後の 1 年生から 9 年生まで歌った「With You Smile」は体育館中に素晴らしい音色が響き渡りました。

当日のプログラムの中に、看板係長のW・Hさんはこう綴っています。

「色とりどりの花のように、一人ひとりの個性が輝いて本当にすてきです。その中にある『響け永遠へとつながるハーモニー』という言葉が、まさに今年のテーマを表しています。音楽は、言葉よりもまっすぐ気持ちを届けてくれますね。・・・」

この一文には、実行委員の生徒たちの願いがまっすぐに込められているように思います。「心をつなげたい」――その思いが、ステージの上で確かに形になっていました。

以前、私が別の学校で働いていたときのことです。
合唱祭を前に、SNS でのトラブルが原因で学校に来られなくなってしまった女子生徒Ａがいました。
「友達から LINE で『大丈夫？』って来てる。」
「よかったね。心配してくれてるんだね。」とわたしが言うと、
彼女は、首を振って言いました。
「でも、噂が広まってるってことじゃん。既読つけたら返信しなきゃいけないし。」
そのとき、わたしは思いました。彼女にとって、スマホの中が“この世界とのつながりのすべて”になっているのだと。
誰かとのつながりも、居場所も、全部その小さな画面の中にあるようでした。
けれども、話し合いを重ねるうちに、誤解は少しずつ解けていきました。
そして彼女は気づいたのです。
「自分が相手を苦手だと思っていたことを、相手が自分を嫌っていると勝手に思い込んでいた」――と。
本当の居場所は、画面の中ではなく、隣にいる誰かとの間にある――そのことを、彼女は身をもって知ったのです。
そうして、彼女はもう一度、現実の教室に戻っていきました。

学園祭のステージでは、全員が自分の役割を果たし、百花繚乱の花が一斉に咲き誇りました。
特に８年生、９年生の後期ブロックの合唱は、声がひとつに溶け合い、心を震わせるほどの響きでした。

スマホの中の“つながり”は、便利で手軽かもしれません。けれど、ステージの上で見せたあの姿、自分の色を他の人の色と重ね合わせ、ひとつの世界をつくりあげる経験は、画面の中では決して得られないものです。

あの日、合唱祭のステージ上に、あの女子生徒Ａの姿がありました。
その声は、まるで、自分の声色を信じ、仲間の声色と重ねながら、ひとつの景色を描いていました。「つながる」ということ――それは、色を重ねて新しい光を生み出すこと。

本校の学園祭で子どもたちが表現した姿から、百花繚乱の本当の意味を知ったように思います。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp